



## 第拾卷第二號



○ 眞木保臣

後おのれなば梅うめも櫻さくらに劣おとるらむ魁まきけてこそ色いろも香かもあれ

○ 親鸞上人

あすありと思おもふ心こころの仇あだ櫻ざくら夜半よはにあらしの吹ふかぬものかけ

○ 弘法大師

ものゝふの思おもひたつ日ひの山やま紅葉あきば錦衣にしきぎすして歸かへるものかは

○ 太田道灌

いそがすはぬれさらましを旅たび人びとのの後あとより晴はるる野路のぢの村雨むらさめ

○ 北條時頼

いくたびか思おもひ定まだめて變かはるらむ頼たのむましきは我心わがこころかな

○ 細川頼之

なき名なをと人ひとには云いひて止やみなまし心こころのとはいかに答こたへん